
語られなかった物語

ズアーキュー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

語られなかった物語

【Nコード】

N8680S

【作者名】

ズアークイー

【あらすじ】

きつとだれにも語られることのない、どこかのお話

（前書き）

はじめましての人は、はじめまして

いつも作者の小説を読んでくださっている皆様には、精一杯の感謝を
いつもどおりグダグダの駄文ですがそれでもOKな方はどうぞ

（今回は昔話風にしてみました）

少し、昔話をしましょう。

それは愛に散った、二人の優しい死神と天使のお話です。

これは本来、誰にも語られることの無い話です。

あなたは、この話が実在すると思いますか？

昔々、ある所に死神がいました。

死神は鎌を使って色々な命を狩っていました。

しかし、死神は本当は何も殺したくありませんでした。

原因は鎌にありました。

鎌は殺すことを楽しみ、死神に囁きます。

『悩むことはない。殺せ』と。

死神は鎌を捨てると何もできません。

でも、やっぱり何も殺したくないのです。

どうしようか悩んでいるとき、死神は一人の少女に出会います。

『ねえ、どうして泣いているの？』

同じころ、別の場所に天使がいました。

天使は少し前に、人間の少女に恋をしました。

そんな天使に突きつけられたのは、恋をした少女の魂を持って来いという神様からの命令でした。

しかし天使もまた、何も殺したくありませんでした。

でも神様からの命令は絶対です。

逆らえるはありません。

しかたなく天使は少女の下へ向かいます。

少女の下に辿り着いた天使が見たものは、楽しそうに笑いあう少女と死神でした。

死神は鎌を捨て去り、殺すことを拒みました。

そして少女と暮らすことを選んだのです。

天使はそんな彼女の姿を見て、自分の過ちを知りました。

天使は天界に戻り、神様に報告します。

『私には、無理です。彼女の幸せを奪うことは出来ない』
神様は怒りました。

『私の命令が聞けぬと言うのか！ 我は神なるぞ！』

『できません。私には、どうしても出来ないのです』

更に怒った神様は別の天使に命令しました。

『こやつは翼を引き千切れ！』

天使は翼を失い、地上へと追放されました。

翼を失った天使は再び、愛する少女の所へと向かいました。

少女は天使を笑って迎えました。

この時、天使は本当に幸せでした。

死神も天使という家族が増えて、とても幸せでした。

しかし、幸せも長くは続きませんでした。

まず、天使を追ってきた神様の軍隊が近づいてきていました。

同じころ、少女は病気になってしまいました。

少女を治すためには特別な薬が必要でした。

死神は薬を作るため、町へと向かいました。

天使は少女を守るため、家に残りました。

そのとき、神様の軍隊がやって来ました。

天使は剣を片手に立ち向かいます。

『彼女には、指一本触れさせない！』

決意と共に天使は少女に背を向けました。
その背中には、小さな黒い羽がありました。

死神が帰ってきたとき、家は静かでした。
周りには天使たちの亡骸が沢山ありました。

『僕の家族はどうなった?!』

死神は薬を抱えたまま、天使と少女を探しました。
少女は家の近くに倒れていました。

天使もその隣に、大怪我をして倒れていました。

死神は二人に駆け寄ります。

幸いにも少女も天使も、生きていました。

『よかった……』

死神は少女に薬を飲ませます。

天使にも包帯を巻くと死神は二人を背負って家の中へ入りました。

やがて少女の病気は治りました。

しかし天使の傷はなかなか治りません。

死神は天使の心配ばかりしていました。

そんなとき、再び神様の軍隊がやって来ました。

しかも今度はもっと沢山の天使たちがいました。

天使と死神は二人で戦い、軍隊を退けました。

死神は思いました。

『神様がいる限り、僕たちはずっと狙われる』

死神は天使に事情を話し、少女に内緒で神様を倒すことに決めました。

死神は神様を倒すため、天界に向かいます。

天使は少女を守るため、家に残りました。

死神が出発してすぐに、神様の軍隊が来ました。

今度は天使の親友たちまで軍隊にいました。
天使は眠っている少女に向かって言いました。
『多分私はこの戦いで死んでしまっただろう』
天使は少女に別れを告げると、家から出ました。
家の周りには既に沢山の天使達がいました。
最後に天使はポツリと呟きました。
『サヨナラ』と。

死神は天界に向かっていました。
神様の社の周りにも天使たちが沢山いました。
しかし死神は怖くありませんでした。
なぜなら、死神は鎌を持っていたからです。
死神の手に戻った鎌は再び囁きます。
『悩むな、殺せ』と。
しかし死神はそれを断り、こう言いました。
『僕はもう殺すためにお前を振るわない！ だからお前は護るために力を貸してくれ！』
鎌はとても驚きました。
彼にそんな事を言ったのは死神が初めてだったのです。
こうして死神と鎌は仲直りしました。

鎌を手に入れた死神はもうなにも恐れませんでした。
沢山の天使たちをあとという間に倒し、死神は神様と対峙しました。
『我を誰だと心得る！ 我は神なるぞ！』
『誰一人救わず悲しみばかり生み出して、なにが神だ！』
こうして神様と死神は闘い始めました。

そのころ、天使も戦っていました。
周りには自分の良く知っているかつての仲間が、自分を殺すために剣を向けています。

『私はもう、何も失いたくない!』

天使のその一言で、背中に生えていた小さな羽は漆黒の翼となりました。

天使は、墮天したのです。

死神と神様の闘いも決着が着きかけていました。

死神の攻撃は神様に届かず、神様の一撃は死神に大きな傷を与えました。

『愚かな。我を前にして護るなどとほざくな』

『僕が、僕が護りきつてみせる!』

そのとき、鎌が呟きました。

『それが愛か……』

鎌はずっと不思議だったのです。

死神が何故、殺すことを拒んでいたのか。

鎌は今、やっと気がついたのです。

『鎌よ、僕に力を貸してくれないか?』

聞かれた鎌はすぐに答えました。

『よかるう』

鎌は全ての力を出し切り、光り輝く刃を生み出しました。

『なんだ、その力は。その程度では我を倒すことなぞ、出来はしないぞ』

神様は嘲笑いましたが、死神は諦めていません。

『これが僕の、全力だ!』

死神は神様に向かって走りました。

『しやらくさい! これで終わらせてくれる!』

神様も迎え撃ちます。

二人が激突した直後。

神様の右手は、死神の腹を貫き。

死神の刃は、神様の心臓を貫いていました。

神様はその一撃で命を失い。

死神は地上に向かって堕ちて行きました。

『大丈夫……もう、大丈夫だ』

死神は堕ちながら、崩れながら、最期に呟きました。

そのとき、天使も事切れようとしていました。

その剣が最後に貫いたのは……一番の親友でした。

そして親友の剣も又、ボロボロになった天使の体を貫いていました。

天使の背中には既に百を超える数の剣が刺さっていました。

『終わったのか……全て』

天使の最後の呟きは、誰にも聞かれること無く空へと消えました。

その場に残ったのは……一枚の灰色の羽でした。

そして、空から落ちてきた欠片が、羽の横に刺さりました。

ここで、このお話はお終いです。

この後、少女が目を覚ましたとき、何を思ったのかは私には語りかねます。

もしかしたら、悲しみの余り狂ってしまったかもしれません。

もしかしたら、この後、別の男と結婚して、幸せに暮らしたかもしれません。

しかしコレだけは言えます。

少女は生涯、この事を忘れなかったのでしょう。

たとえ、二人が悪魔と罵られようと、彼女だけは二人を信じていたでしょう。

そして散った二人は、（冥界というものがあるかどうかは分かりませんが）旅立った先で再開を果たしたでしょう。

さあ、もう明け方です。

あなたは、進まなくてはなりません。

大丈夫。

どんなに苦しくても、悲しくても、あなたは進めるでしょう。私はその時、また別の誰かと別の話をしていると思います。

これだけは忘れないで。

あなたの周りには、きっと愛してくれている人がいる筈です。

あなたは、その愛を無駄にはいけません。

それでは、最後に一言だけ。
いつてらっしゃい。

（後書き）

ご意見、ご感想などありましたら送ってください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8680s/>

語られなかった物語

2011年7月23日18時37分発行